

東京工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	教科名	日本語表現 (教養ゼミ I)
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 選択	
授業の形式	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教育科		対象学生	4	
開設期	後期		週時限数	2	
教科書/教材	プリントを配布				
担当者	津田 潔				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・編入・就職試験対策もかねて、社会人としての実用的な文章の書き方を実践的に習得する。 ・ことばについて分析的に捉える経験をし、それを自己の表現の中に活かせるようにする。 ・専門以外の学習を通して、多角的な観点から物事を考える視野や態度を養う。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本語による表現技術の向上を実践的に図る中で、日本語によるコミュニケーション力の基礎力を身につける。				
授業の進め方と授業内容・方法	講義形式で授業を行う。適宜、演習問題を課題レポートとするので提出すること。				
注意点	論理的かつ説得力のある文章が書け、ことばのしくみや慣習の概要が理解されたかどうかをレポートにより評価する。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	文章作成の基礎	はじめに、文章作成の基礎となる知識や技術について確認する。そのうえで、分かりやすい文章を書く力を養うために、新聞記事などの内容を要約し、それについて自分の意見を述べる練習をする。グループになり、お互いの発表についてコメントし合う。		
	2週	文章作成の基礎	はじめに、文章作成の基礎となる知識や技術について確認する。そのうえで、分かりやすい文章を書く力を養うために、新聞記事などの内容を要約し、それについて自分の意見を述べる練習をする。グループになり、お互いの発表についてコメントし合う。		
	3週	文章作成の基礎	はじめに、文章作成の基礎となる知識や技術について確認する。そのうえで、分かりやすい文章を書く力を養うために、新聞記事などの内容を要約し、それについて自分の意見を述べる練習をする。グループになり、お互いの発表についてコメントし合う。		
	4週	文章作成の基礎	はじめに、文章作成の基礎となる知識や技術について確認する。そのうえで、分かりやすい文章を書く力を養うために、新聞記事などの内容を要約し、それについて自分の意見を述べる練習をする。グループになり、お互いの発表についてコメントし合う。		
	5週	文章作成の基礎	はじめに、文章作成の基礎となる知識や技術について確認する。そのうえで、分かりやすい文章を書く力を養うために、新聞記事などの内容を要約し、それについて自分の意見を述べる練習をする。グループになり、お互いの発表についてコメントし合う。		
	6週	実用的な文章表現	はじめに、文章作成の基礎となる知識や技術について確認する。そのうえで、分かりやすい文章を書く力を養うために、新聞記事などの内容を要約し、それについて自分の意見を述べる練習をする。グループになり、お互いの発表についてコメントし合う。		
	7週	実用的な文章表現	はじめに、文章作成の基礎となる知識や技術について確認する。そのうえで、分かりやすい文章を書く力を養うために、新聞記事などの内容を要約し、それについて自分の意見を述べる練習をする。グループになり、お互いの発表についてコメントし合う。		
	8週	実用的な文章表現	はじめに、文章作成の基礎となる知識や技術について確認する。そのうえで、分かりやすい文章を書く力を養うために、新聞記事などの内容を要約し、それについて自分の意見を述べる練習をする。グループになり、お互いの発表についてコメントし合う。		
	9週	実用的な文章表現	はじめに、文章作成の基礎となる知識や技術について確認する。そのうえで、分かりやすい文章を書く力を養うために、新聞記事などの内容を要約し、それについて自分の意見を述べる練習をする。グループになり、お互いの発表についてコメントし合う。		
	10週	実用的な文章表現	はじめに、文章作成の基礎となる知識や技術について確認する。そのうえで、分かりやすい文章を書く力を養うために、新聞記事などの内容を要約し、それについて自分の意見を述べる練習をする。グループになり、お互いの発表についてコメントし合う。		

11週	ことばの多様性	ことばには、場面や話す人によって、さまざまなバリエーションが見られる。私たちの身近にあることばの現象を客観的に観察し、日本語の多様性について捉えなおす。 ・場面とことば（場面の改まり度、メディアとことば） ・属性とことば（集団語、若者語、中間言語） ・ことばの使い分け（方言と共通語の使い分け、日本語と他言語の使い分け）
12週	ことばの多様性	ことばには、場面や話す人によって、さまざまなバリエーションが見られる。私たちの身近にあることばの現象を客観的に観察し、日本語の多様性について捉えなおす。 ・場面とことば（場面の改まり度、メディアとことば） ・属性とことば（集団語、若者語、中間言語） ・ことばの使い分け（方言と共通語の使い分け、日本語と他言語の使い分け）
13週	ことばの多様性	ことばには、場面や話す人によって、さまざまなバリエーションが見られる。私たちの身近にあることばの現象を客観的に観察し、日本語の多様性について捉えなおす。 ・場面とことば（場面の改まり度、メディアとことば） ・属性とことば（集団語、若者語、中間言語） ・ことばの使い分け（方言と共通語の使い分け、日本語と他言語の使い分け）
14週	ことばの多様性	ことばには、場面や話す人によって、さまざまなバリエーションが見られる。私たちの身近にあることばの現象を客観的に観察し、日本語の多様性について捉えなおす。 ・場面とことば（場面の改まり度、メディアとことば） ・属性とことば（集団語、若者語、中間言語） ・ことばの使い分け（方言と共通語の使い分け、日本語と他言語の使い分け）
15週	ことばの多様性	ことばには、場面や話す人によって、さまざまなバリエーションが見られる。私たちの身近にあることばの現象を客観的に観察し、日本語の多様性について捉えなおす。 ・場面とことば（場面の改まり度、メディアとことば） ・属性とことば（集団語、若者語、中間言語） ・ことばの使い分け（方言と共通語の使い分け、日本語と他言語の使い分け）
16週	自分の興味のあることばの現象について調べ、考察を加えたものを期末レポートとしてまとめる。	

評価割合

	試験	口頭発表	相互評価	態度	小課題	期末レポート	合計
総合評価割合	0	25	0	0	25	50	100
基礎的能力	0	25	0	0	25	50	100
	0	0	0	0	0	0	0